



# 北九州市における 中小企業向けDX支援施策

北九州市産業経済局



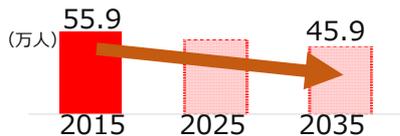
## ポイント

- P3-4 生産年齢人口の減少に直面する北九州市で、企業が経済活動を維持または持続的に成長するには、「**労働生産性の向上**」「**顧客に対する 新たな価値創出**」が不可欠であり、**企業の変革（DX）支援**が重要です。
- P5 企業のDXの取組みを加速化させるため、学研都市に「**ロボット・DX推進センター**」を設立しました。
- P6,7 また、民間企業どおしの活動の活発化を目指し、「**システムインテグレータネットワーク(18社)**」「**DX推進プラットフォーム(322社)**」なども設立しています。
- P8,9 中小企業支援に関し、DXの気づきから、専門家によるアドバイス、診断、人材育成、実践時の補助金制度など、**切れ目のない伴走支援**を実施しており、これら取組みの結果「**夏のDigi田甲子園・内閣総理大臣賞 優勝**」を受賞しました。

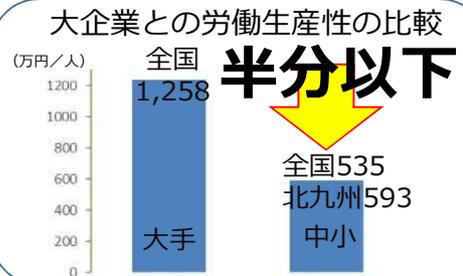
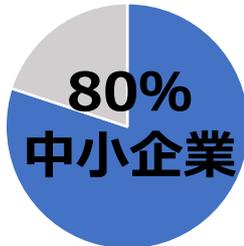
生産年齢人口の減少に直面する北九州市で、企業が経済活動を維持または持続的に成長するには、

- ・ **労働生産性の向上**
- ・ **顧客に対する新たな価値創出** が不可欠。

北九州市の生産年齢人口  
**毎年5千人減少**



市内従事者数



**労働生産性の向上**

- ・ ペーパーレスデータ化による業務効率化
- ・ ロボットによる自動化
- ・ 素早く正しい経営判断

**新たな価値創出**

- ・ SNS、オンライン活用による顧客開拓
- ・ 既存サービス×デジタルによる新サービス提供

3

市内中小企業の**生産性向上・価値創出を実現**させていく。市内だけでなく首都圏のリソースも最大限活かし、**産業界**でいち早くDXにチャレンジし、**住みよいまち**を実現。

**地域企業の様々な課題**

- ・ 経営者の意識変革が求められる
- ・ 慢性的な人手不足
- ・ 社内DX人材の不足

- ・ 古いシステム、ペーパー管理
- ・ システムがバラバラ
- ・ 場当たりの設備投資

- ・ 費用対効果が分からない
- ・ 予算がない/足りない

- ・ 身近な事例を知りたい
- ・ デジタル機器を体験したい
- ・ ベンダー/専門家と接点がない

**地域産業DXに向けて**

- ・ **ヒト、モノ、カネ、情報**の全てにおいて課題は山積
- ・ **取組みの進度も様々**
- ・ DXに取り組む企業の裾野を広げるとともに、**真のDX**に取り組もうとする企業を後押し



北九州市ロボット・DX推進センター



連携 北九州市DX推進プラットフォーム

4

今年4月に、北九州学術研究都市に北九州市ロボット・DX推進センターを開設。これまで以上に市内企業のロボ導入・DX実践に向けた支援を加速。

ロボット・DX推進センター

場所

北九州学術研究都市  
(技術開発交流センター 1階)

業務内容

- 生産性向上に関する啓発
- 相談対応やアドバイス
- ロボット、IoT、デジタル化などの先端技術の導入支援
- 人材育成支援
- 地域企業とベンダー、市内大学との連携促進

拠点の機能

- ①導入総合支援機能 DXに向けた総合的な導入支援を実施
- ②体験機能 デジタル技術やロボットなどを気軽に体験
- ③人材育成機能 企業向け人材育成、大学生のインターンシップ型アルバイト
- ④集いの場 地域企業、SIer、大学、金融機関等の集いの場を創出  
※産学官金の連携による充実化を図る



地域企業のロボット導入、DX推進をサポートするネットワーク。ドーワテクノス（会長企業）など18会員で構成。「地元企業の成長」に貢献するとともに「SIer産業の成長・拠点化」も目指す

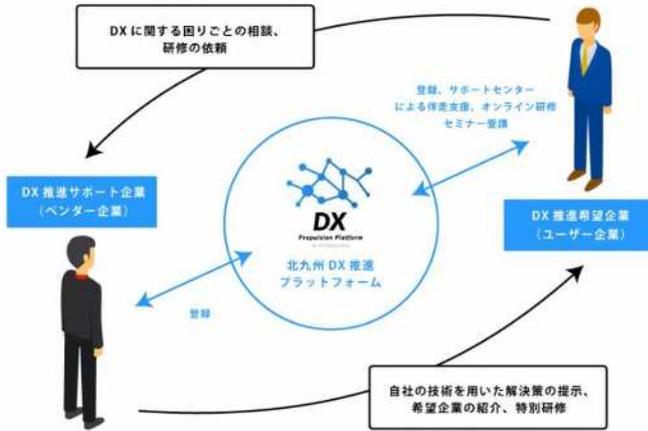
会長	(株)ドーワテクノス
副会長	(有)ICS SAKABE
副会長	ミシマ・オーエー・システム(株)
副会長	(株)リョーワ
2018入会	(株)オーネスト
"	(株)ソルネット
"	(株)マツシマメジャテック

2019入会	(株)FAサポート
"	(株)タイヨウ
"	松本工業(株)
2020入会	(株)イーモーション
"	ビープラッツ(株)
"	三島光産(株)
"	(株)リベルタス・アドバイザー
"	KiQ Robotics(株)

2021入会	(株)ケーメック
"	イントループ(株)
2022入会	(株)AIBOD



DXを推進したい市内ユーザー企業と  
デジタル化やデータ活用等を提案できるベンダー企業を  
つなぐプラットフォームを創設(令和2.12)。**322社参加。**



会員数 322社 (令和4.9時点)  
 ユーザー企業187社 (市内企業に限る)  
 ベンダー企業135社 (市内外を問わず)  
 代表企業 (株)YE DIGITAL  
 事務局 北九州市、北九州産業学術推進機構

## 現在の取組み

プラットフォームでは、  
次ページ以降記載のセ  
ミナー、相談、補助事  
業等を通じDXを推進。

プラットフォーム  
ホームページ



## さらなる取組み

労働生産性  
見える化  
システム



自社の成長度、会  
員企業内での立ち  
位置が把握可能

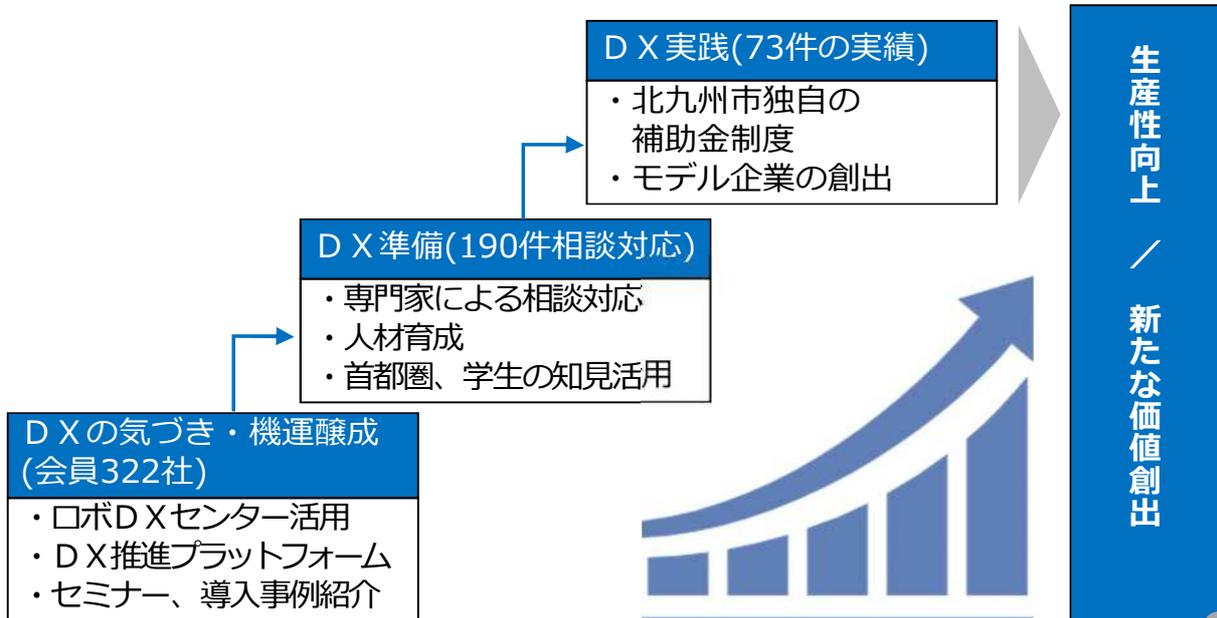
ニーズ・  
シーズ  
マッチング  
システム



ユーザーニーズと  
ベンダーシーズが  
把握できスピード  
感もって解決可能

## DXに向けた切れ目のない伴走支援体制

DXの気づきから、専門家によるアドバイスや診断、人材育  
成、実践時の補助金制度など、**切れ目のない伴走支援体制**を  
構築し、市内企業の**生産性向上・価値創出**を実現させる。



令和4.8時点

「北九州市 中小企業のDX支援加速化」が、内閣官房主催「夏のDigi田甲子園」で内閣総理大臣賞・優勝受賞。  
「全国各地でぜひ参考にしてほしい模範的モデル」との講評。



<審査講評：審査委員長 増田寛也氏>

地域産業の土台となる中小企業を対象に、様々な関係者との協力関係を築き上げ、補助金に限らず官民のマッチングシステム、専門家によるコンサルティングなど切れ目がなく多彩な支援メニューを提供することで、地域を挙げて広域的にDXによる中小企業の生産性向上を実現している。中小企業の支援を行うに当たって、全国各地でぜひ参考にしてほしい模範的なモデルである

9

参 考

企業の生産性向上・価値創出に向けた相談にワンストップで対応。FAISコーディネーターや市内企業等の専門家が無料で対応。190件の相談に対し483回の専門家派遣を実施。



### 相談内容

- ・web会議の方法
  - ・オンライン予約システム導入相談
  - ・wifi等ネットワーク環境構築相談
  - ・効果的なSNS活用
- など多岐にわたる

ワンストップ相談  
専用ホームページ



11

ロボット・DXセンターでは、ロボット、デジタル機器等10種類以上のデモ展示を実施。見て、触れ、操作することが可能。コーディネーターによる説明も実施。

展示ルーム

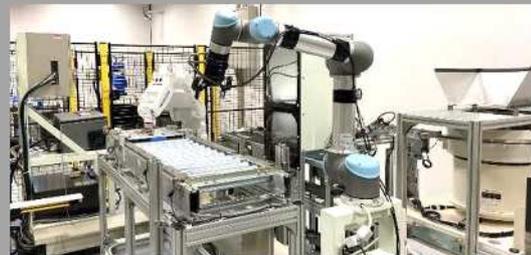


操作教育用ロボット



IoT機器 (イメージ図)

実習室



模擬組立ライン



高速ハンドリングのデモ

**地域企業の人材育成にも貢献。経営者のマインドセット、企業内人材の育成に加え、首都圏人材、地元大学の知見も有効活用し、企業のDXを進めていく。**

社内人材育成	経営者のマインドセット	企業内人材育成
	 <ul style="list-style-type: none"> <li>第4次産業革命への対応力を経営トップ自らが検討できる<b>日本で唯一のビジネススクール</b>開催</li> <li><b>60人以上</b>受講</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場リーダー・従業員を対象にデジタル、IoTを学ぶ講座開催</li> <li>1万円以下で導入できるラズベリーパイなど取り組みやすいテーマ</li> <li>講座を通じて、DX実践につなげていく</li> </ul>
社外人材活用	首都圏人材活用	地元大学活用
	<ul style="list-style-type: none"> <li>北九州に貢献したい首都圏の人材と市内企業をつなぐ事業を実施</li> <li>令和3年度新規事業</li> <li><b>不動産DX、事業再構築DX</b>など<b>20件以上</b>の案件創出を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>有給インターンシップ</b>では、企業のデジタル化の課題を、<b>ITに強い地元大学生が解決</b>。</li> <li>企業のDX推進と学生の成長の双方の実現に寄与。地元企業を知ることで学生の地元就職も期待。</li> </ul>

13

**北九州市独自の補助金制度。社員教育や事前検討、システム導入まで網羅的に補助。専門コンサルによる伴走支援も実施。令和2年度26件、3年度47件の支援実施。**

	デジタル化枠	DXモデル育成枠	DXモデル枠
概要目的	中小企業の生産性向上を図るため、市内中小企業が実施するDXの各種取組み経費の一部を補助します。また、申請枠を3段階設置し、中小企業のDX取組み状況に応じた支援を実施します。	ビジネスモデル変革に向けた戦略策定から始めたい事業者様向け	新ビジネス創出等、デジタルトランスフォーメーションを加速させたい事業者様向け
対象企業	市内に事業所を有する中小企業		
交付要件	生産性向上を図るため、当該交付対象者が実施するDXの取組みを支援します		
交付上限	最大80万円	最大200万円	最大500万円
補助率	対象経費の1/2以内	対象経費の2/3以内	対象経費の2/3以内
対象経費	人材育成・教育経費・製品・サービス・開発経費・システム導入経費・環境整備経費・付帯経費・その他		

**11/30まで募集中**

14

ロボット・DX推進センターでは、地域企業、SIer、大学、金融機関の集いの場を創出。交流会・展示会の実施や協力企業等によるセミナー・説明会も企画し、センターが産学官金のハブ機能を果たすことを目指す。



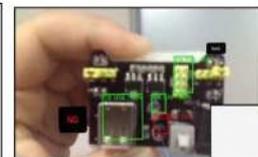
15

これら切れ目のない支援により市内中小企業のDXは着実に進展。株式会社リョーワは、2022(令和4)年3月24日、経済産業省のDX Selection 2022 中堅・中小企業向け「DXセレクション」にて「準グランプリ」受賞。



<企業概要>

当社は、油圧装置の販売・修理・メンテナンスを手掛け、来年で創業55年を迎えます。昨今の様々な外的要因による電気駆動式への置き換え需要に伴い、自社の強みを活かしてAI外観検査システム市場に参入しました。タイ大学内LABOと同時開発できる環境を整備するなど社内DXを進めながら、新システムの開発・販売で製造業の生産性向上に寄与してまいります。



<取組概要>

- 【デジタイゼーション】・開発環境の見える化(GitHubの活用で日本とタイのグローバル開発の効率化)
- 【デジタライゼーション】・新業務システム(見積・販売・給与・会計)導入によるデータ連携
  - ・外観検査システムのサブスクリプションによる販売
- 【DX】・自社オリジナルのクラウドAI外観検査システム[CLAVI®]の開発(スマホやMRでの部品検査)
  - ➔ 初期投資20万円、月2万円の低価格なクラウドAI検査システムのサービス提供
  - ・ MRを活用した油圧装置の遠隔メンテナンスサービス(2022年度より実証実験開始予定)

16

エグゼクティブビジネススクールを受講した経営者がデジタル化に取り組み、事業拡大へ！

好事例  
その1

ものづくりの現場へDX導入！



・溶接前後の熱処理に  
利用する加熱装置の  
設計・製作を手がける  
中小企業  
・実父から社業を受け継いだ  
女性の社長がDXに挑戦

- ✓ 発電所・製鉄所等の大型設備工事では、加熱状況の数日間にわたる常時監視が必要
- ✓ 市や専門機関の支援を受けながら、効率的・安全に複数の現場を監視できる自動制御・遠隔監視システムを構築

➡ デジタルを活かし、自社加熱装置の付加価値を高め事業を拡大！

さらに、3Dプリンターを自社開発し、耐熱部品の受注製造も開始  
3年後、会社全体で売上倍増を見込む

好事例  
その2

デジタル化で女性活躍・事業拡大へ！



・社員9人中8人が女性の建設会社  
・創業以来、男性主体の建設業界で女性の活躍を模索

- ✓ 市や専門機関の支援を受けながら、AIとオンラインを活用した現場監督システムを開発

同業者へサブスクで販売予定  
新たな事業の柱に！



デジタル化により、  
建設サービス業への業種拡大を図り、  
今後5年で、女性雇用の拡大、売上倍増を見込む

鉄道部品を製造する創業100年を迎えた中小企業。  
企業の生産性向上(ロボット,デジタル)、価値創出(新商品開発)  
若者雇用(地元、海外)を同時に進め、次の100年に挑む。



若者(地元大学、高専、タイPIM大学)がロボット・デジタルを活用し、会社の成長に貢献



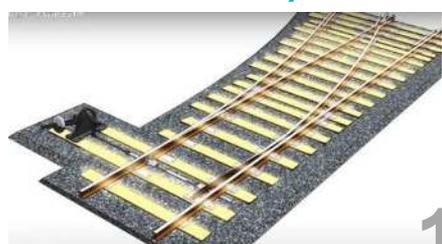
生産性向上(ロボット導入、デジタル推進)



新商品開発



デザイン、プログラムスキルを活かしたweb、youtube制作



IoT生産性向上プロジェクトに関連する企業を中心に、同社の呼掛けにより「北九州IoT実践研究会」が発足（令和元年）。同社は、**継続的にロボット導入、DXを推進**している。他企業のモデルとなる地域の中核企業。

戸畑ターレット工務所

日本鉄塔工業      山本工務所

吉川工業ファインテック      勝山工務所

石川金属工業      ハビク口

FAIS（専門家派遣）

県工技センター機電研（支援機関）

（株）戸畑ターレット工務所様事例



zIoT宣言

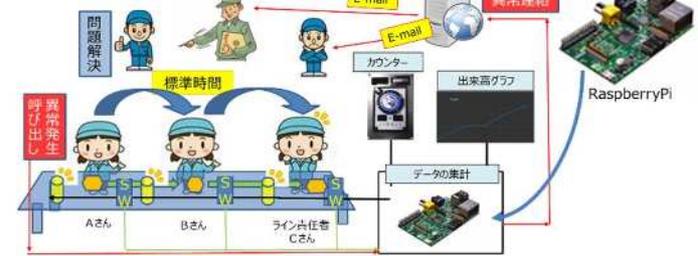
自動車部品事業部技術部  
生産技術グループ・グループ長代理  
中野 貴敏

スマートファクトリー実現のためにはロボットやIoTの導入が欠かせません。人間ができないこと、大変なことはロボットや省力機器に任せて効率化を進める。ただ管理するだけでなく、分析してカイゼンする。現場が使いやすいシステムをこれからも目指していきます。



IoT技術の活用

生産現場の人とデータ・情報を結ぶ



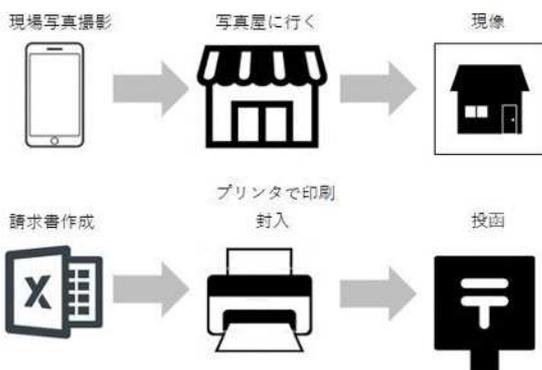
60代の2名で運営するリフォーム業。「インターネットを利用可能になったため、業務のデジタル化を進めたい」とFAISワンストップ窓口へ相談。デジタル化による業務効率化を図る。



取組紹介動画→



<これまで>



<これから>

